

平成29年度 韓国・全羅北道文化探訪団報告書

全羅北道庁の御好意と御協力により、県民を全羅北道に派遣する本事業も、今回で9回目となりました。今年は、文化団体同士の交流を進めたいとの全羅北道庁の御提案を踏まえて、鹿児島で日本舞踊の普及・指導に尽力されている「国際文化交流会TEN」の12名が、平成29年1月1日から11月5日に全羅北道を訪問いたしました。

滞在期間中は、全羅北道の南原市農楽団との舞踊を通じた交流、益山百済文化史跡地や全州韓屋村の視察、ミュージカル「沈清」の観賞などにより全羅北道の歴史・文化に直接触れる充実した5日間を過ごしました。また、「ビビンバ発祥の地」で様々な食を堪能し、全羅北道の奥の深さを実感いたしました。

文化交流では、国際文化交流会TENと南原市農楽団の方々が同じ舞台上それぞれの舞踊を披露し合いました。会場には、ソウルから訪れた若者の姿があり、韓国の人々に日本舞踊を知っていただくよい機会となりました。

参加者からは、「踊るスタイルは違っても、お互いの伝統文化を知る良い機会になった」「またお互い、踊りを披露する機会ができたら」との声が聞かれました。また、全羅北道の視察先では、施設のガイドさんより、日本との交流の歴史や施設等についての丁寧な説明を受け、韓服（韓国の民族衣装）の試着なども行い、「百済と日本との交流の強さを感じた」「韓国が身近に感じました」等の感想をいただき、全羅北道の歴史、文化、食を十分に堪能する訪問となりました。

今回の事業を企画・立案・運営していただきました全羅北道の関係者の方々に厚く感謝申し上げますとともに、鹿児島と全羅北道の友好関係がますます深まることを願っております。



左写真

- ・南原市農楽団・国際文化交流会TEN
交流公演後の記念撮影（上段）
- ・馬耳山を背景に記念撮影（下段左）
- ・南原市農楽団との交流夕食会にて（下段右）

1. 期 日：平成29年11月1日（水）～平成29年11月5日（日）

2. 団員人数：14名（うち2名は、事務局職員）

3. 日 程：

月 日	時 間	内 容
11.1 (水)	11:30～13:15	鹿児島空港発→仁川国際空港
	14:00～17:30	仁川国際空港⇨韓国・全羅北道全州市
	17:30～19:00	歓迎晩餐会(全州ビビンバ等)
11.2 (木)	9:00～ 9:30	全羅北道庁表敬訪問(国際関係大使表敬)
	11:00～12:00	南原ハーブテーマパーク見学及び体験
	12:30～14:00	昼食(黒豚サムギョプサル等)
	14:30～16:30	南原市農楽団交流と国際文化交流会TEN交流公演
	18:30	南原市農楽団との交流夕食会(韓国式牛肉しゃぶしゃぶ)
11.3 (金)	9:30～12:00	百済文化遺跡地見学(益山弥勒寺址・王宮里遺跡地)
	12:00～13:00	昼食(豆腐カフェ)
	14:30～16:30	鎮安馬耳山
	18:00	夕食(牛骨スープ等)
11.4 (土)	10:00～11:30	全州市内散策
	12:00～13:00	昼食(あさりお粥等)
	13:30～15:30	全州韓屋村見学
	16:00～17:30	ミュージカル沈清観覧
	18:00	夕食(中華料理)
11.5 (日)	10:00～13:30	韓国・全羅北道全州市⇨仁川国際空港
	17:10～18:45	仁川国際空港発→鹿児島空港

11月1日(水)

出発(鹿児島空港)



歓迎晩餐会



全羅北道庁の歓迎晩餐会の様子です。国際協力課長より歓迎の挨拶をいただき、次に派遣団 団長である当協会専務理事 寺園が今回の招待へのお礼を述べました。国の無形文化財に指定されている「全州ビビンバ」をはじめ、色とりどりに並べられた料理を参加者一同、和やかな雰囲気の中堪能いたしました。

11月2日(木)

全羅北道庁訪問

全羅北道庁を表敬訪問し、国際関係大使 朴 鎮雄 様にお目にかかりました。

当協会理事長からの挨拶文を団長が代読し、大使へお渡しいたしました。その後、国際文化交流会 TEN の方より記念品を贈呈いたしました。

大使からは、韓紙でできたスカーフを団員全員にいただきました。



全羅北道庁1階フロアには「鹿児島県国際交流協会の皆様 全羅北道訪問を歓迎いたします」と表示された電光掲示板があり、そのお心遣いに感激しながら記念撮影を行いました。

南原ハーブテーマパーク見学・体験

全羅北道の南東部に位置する南原市，智異山（チリサン）を中心に南原市が6次産業としてハーブの栽培・加工・流通・体験・観光などの地域経済の活性化を目的に作ったテーマパークです。

今回は，まだプレオープンの施設「Herb Science Station」にて，フレッシュハーブからエッセンスを抽出する機械の見学や，自分の肌質を調べ，その結果から肌質にあった化粧水をつくる体験を行いました。



化粧水づくりは，団員2名が施設の方から指導を受けながら調合しました。作りたてのハーブ化粧水等をお土産いただいた後，ハーブの歴史や薬効などのパネル見学をしました。

南原市農楽団と国際文化交流会TEN交流公演 ①

農楽とは韓国の伝統音楽の1つで、農作業を励まし、旧正月や旧盆などめでたい日に奏でる音楽です。南原市農楽団の施設へソウルから民泊のため来られていた観覧者の前で「南原市農楽団&国際文化交流会TEN交流公演」を行いました。



南原市農楽団の施設



農楽団の演奏



日本舞踊「春日三番叟」



日本舞踊「さくらさくら」



日本舞踊「一寸法師」



日本舞踊「藤娘」

南原市農楽団と国際文化交流会 T E N 交流公演 ②



日本舞踊「南部倭積唄」



韓国・パンソリを披露



農楽団演奏



農楽団の演奏に日本舞踊家が即興で参加



ソウル在住の若い観覧者より記念撮影のリクエストがあり撮影

演舞後、観覧者より「日本舞踊を初めて見た。曲の前に内容説明があったので、踊りの動きひとつひとつの意味が分かり、とても楽しめた」等の感想をいただきました。

南原市農楽団との交流夕食会

交流公演の後、南原市農楽団の皆さまと交流夕食会を行いました。

南原市農楽団の団長と国際文化交流会 TEN 代表の鳥野様より挨拶をいただいた後、鹿児島のお土産を農楽団の皆さまへお渡ししました。

鹿児島の団員より農楽団へ、「演舞中に頭を回し続けていらっしゃいますが、目は回りませんか」と質問があり、「頭を回しているのではなく、体の芯を動かしている所以は回りません」とのお答えが笑顔と共にありました。



団員から「農楽団との交流が特によかった。後の食事会でも人的なふれ合いができ、とてもよいものでした」等の感想が多くあがるほど有意義な交流夕食会となりました。

11月3日(金)

百済文化遺跡地見学(益山弥勒寺址・王宮里遺跡地)

百済文化遺跡地は、華やかな文化を花咲かせた百済の王宮や寺院の後がみられる遺跡群です。7世紀に武王が建立した石塔が残っており、韓国では最古、最大の石塔です。

この遺跡地を丁寧にガイドして下さった日本人女性から、国定に指定されている西塔の修復作業がもうすぐ完了することや当時の王宮での暮らしがわかる遺物の説明を伺いました。



鎮安馬耳山

馬耳山は、韓国で「聖地」「パワースポット」的な存在です。馬耳山の間には仏教寺があり、その寺院内には「塔=パコダ」があります。このパコダとは、小さな石を積み上げた塔で接着剤は一切使われていないのに、台風が来ても倒れないそうです。塔寺までの道のりでは、美しい紅葉が見られ、またその先にある塔寺の風景はここでしか見られないものでした。



11月4日(土)

全州韓屋村見学

約700軒の韓国式伝統家屋が保存されている地域で、多くの観光客が訪れていました。ガイドの方の配慮で、混雑を避け、韓屋の並ぶ小道の散策はとても風情がありました。また全州の伝統文化である韓紙工房の見学等も行いました。

大通りから慶基殿等を巡り、その後の自由行動では韓服体験を楽しみました。



11月5日（日）

解団式

4泊5日の行程を終え帰国し、鹿児島空港にて解団式を行いました。

国際文化交流会 TEN 代表の烏野様より「農楽団と有意義な文化交流ができ、また韓国の方々に日本舞踊を観ていただく機会があり貴重な体験ができた」とのご挨拶がありました。

最後に寺園団長の挨拶で、平成29年度韓国・全羅北道文化探訪団派遣事業は終了となりました。



[団員の皆さまよりいただいた感想（抜粋）]

Q. 今回の文化探訪団に関して特に印象に残ったことを教えてください。

- ・農楽団の方々の演奏を生で見られたことと一緒に食事ができたこと。
- ・個人の旅では見る機会がないような場所、出会えないような素晴らしい人々に接する機会を与えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。文化交流でこちらの準備したものが喜んでいただけてTENスタッフとしては嬉しかったです。また、生で聴いたパンソリは、その迫力・訴える力強さに感動しました。

Q. 全羅北道庁や南原市農楽団と今後どのような交流を希望しますか。

- ・これからもお互いの文化を通して一緒に公演したいです。そして、お互いにゆっくりお話できたらいいなあと思います。
- ・地方同士、お互いに協力して関係を深める。鹿児島での催し、フェスティバルなどに参加してもらおう。地方レベルで交流することは大切でいいことです。

食の都 全羅北道



全州ビビンバと共に並べられた料理の数々



黒豚のサムギョプサル等



韓国式 牛肉のしゃぶしゃぶ



あさり粥とチヂミ等



牛骨スープ等